

# オンライン型インターシップの現状と課題

清水 浩

帝京大学宇都宮キャンパスリベラルアーツセンター

## 概要

帝京大学宇都宮キャンパスにおいてインターンシップは、就業体験を通じて、仕事や企業、業界、社会への理解を深めることができる制度の一つである。学生にとっては、インターンシップに参加することをおし、業界や企業などの職業に関する理解を深め、将来の道を決めるきっかけになること、また、その企業での本格的な就職を考えたりできるなど多くのメリットがあることが報告されている[1]。

このような中、我が国においては、三省合意[2]による、企業に対して事前にインターンシップを採用活動に生かすと明らかにすることなどのルールの変更がなされ、多くの学生に対する参加、体験の必要性が挙げられている。

今回の研究では、大学の授業で行っているインターンシップを履修した学生の中で、近年、多くの企業で取り入れられている、オンライン型インターンシップを体験した学生へインタビュー調査を実施し、今後のインターンシップの事前学習の在り方を検討した。その結果、Zoom 及び LMS 等を活用したオンライン型の授業を実践することをおし、コミュニケーション力を育成する学習やグループ活動の在り方等について検討する必要性が示唆された。

## 1. 問題の所在と目的

### 1.1 はじめに

文部科学省・厚生労働省・経済産業省(以下[3])は、就業体験を通じて、仕事や企業、業界、社会への理解を深めることができる制度の一つであるインターンシップを、「学生が在学中に自らの専攻、将来のキャリアに関連した就業体験を行うこと」と定義した。

大学におけるインターンシップは、①大学等における正規の教育課程として位置付け、現場実習などの授業科目とする場合、②大学等の授業科目ではないが、学校行事や課外活動等大学等における活動の一環として位置付ける場合、③大学等と無関係に企業等が実施するインターンシップのプログラムに学生が個人的に参加する場合の3種類に分けられる。また、就業体験要件として、必ず就業体験を行うことや、インターンシップ実施

期間の半分を超える日数を職場での就業体験に充てること、さらに実施期間要件として、実施期間は、汎用的能力活用型では5日間以上、専門能力活用型では2週間以上等が挙げられている。

加えて、学生にとっては、インターンシップに参加することをおし、業界や企業などの職業に関する理解を深め、将来の道を決めるきっかけになること、また、その企業での本格的な就職を考えたりできるなど多くのメリットがあることが報告されている[1]。

以上のことから、インターンシップの位置付けを理解し、高い意識を持って参加している学生が多くみられ、特に、大学生の過去3年間における全国のインターンシップの実施状況では、2020年度卒 72.9%、2021年度卒 84.9%、2022年度卒 79.8%[4]と高い数値となっている。

一方、政府は、インターンシップに参加した学生の評価を企業が採用選考時に利用できるように、企業に対して事前にインターンシップを採用活動に生かすと明らかにすることなどのルール

変更を求める，文科省，厚労省，経産省による三省合意[2]を行った。

具体的には，これまでインターンシップで，取得した学生情報を広報活動や採用選考活動に使用してはならないとされていたものを，活用することが可能となった。なお，これを受けて，企業はインターンで学生の潜在力を図り，その情報を採用にも生かすことができ，その結果，より専門性の高い学生を確保しやすくなること，また，学生にとっては自分の希望するキャリアに合った就業先を選びやすくなるなどが予想される。

しかし，昨今のコロナ禍の状況下では，テレワークの拡大と併せてオンライン型インターンシップを実施する企業が増えている状況である。この結果，企業に出向いてのインターンシップの就業体験の機会がほとんどなくなり，学生はネット上の情報などの限られた情報によって職業選択を行わなければならない，自分自身と企業とのミスマッチが生ずる可能性が大きくなっている。

以上のことから，今回の研究では，オンライン型インターンシップの現状と課題について明らかにすることを目的とする。

## 1.2 インターンシップに関する授業

### 1.2.1 授業概要と達成目標

インターンシップに関する授業は，「プレインターンシップ」（後期，2年生対象）と「インターンシップ」（通年，3年生対象）を開講している。なお，「プレインターンシップ」と「インターンシップ」の授業概要と達成目標は，表1，2のとおりである。

表1 「プレインターンシップ」（2年生）の授業概要と到達目標

授業概要	①インターンシップは，職業観を醸成し，残りの大学生活ですべきことを明確化するという意義がある。また，実習を経験することで，就職活動を円滑に進められたり，卒業後社会に出てから職場においてうまく適応できるようになる。
------	--

	<p>②インターンシップを通して社会で働く経験から学び，学生生活を見直し，社会で働く際の心の準備をする機会を持つことが重要である。そのためには，インターンシップの意義を知るとともに，自らの参加目的を明確にする必要がある。</p> <p>③本講義では，就職活動前に行うインターンシップの意義について考えることや，これから参加するインターンシップに向けての準備活動を中心に授業を進めていく。本講義は，個人ワークだけではなく，グループ活動を通して学んでいく。</p>
到達目標	<p>①社会で働く経験をするインターンシップの意義について知り，インターンシップに対する理解を深めることができる。</p> <p>②先輩のインターンシップの体験発表を聞くことで，来年時の実習についてイメージできる。</p> <p>③企業研究の方法を学んだ上で実際に情報を検索し，応募に向けた流れや書類作成について理解できる。</p> <p>④インターンシップ先で求められる社会人としてのマナーやルールについて理解できる。</p>

表2 「インターンシップ」（3年生）の授業概要と到達目標

授業概要	<p>①インターンシップとは「学生が在学中に自らの専門や，将来のキャリアに関連した就業体験を行うこと」を指す。</p> <p>②本授業では，大学を離れ企業や団体において実務的な活動を経験することで，自らの専門性や職業の興味・関心について考える。</p> <p>③これらの経験を通して，今後の学習・研究への動機付けや方向性を明確化することを目的とする。</p>
	①実習後に，実習報告書，実習日誌等の提出，インターンシップ報告会での発表，事後レポートの提出を行い，インターン

到達目標	<p>シップでの学びを言語化することができる。</p> <p>②インターンシップに参加することにより、自らの専門性を将来の仕事にどのように活かすことができるのかについて理解することができる。</p> <p>③今後の進路選択について考える際の指標を得ることができる。</p>
------	--

なお、「インターンシップ」の授業内容は、①インターンシップの意義を理解し、②自分のインターンシップに関する関心を明確にし、言語化する、③実際にインターンシップの応募情報を検索し、イメージを明確化する、④社会人マナー及びインターンシップ応募書類について理解する、⑤インターンシップ先に向けた自己PRを作成する、⑥インターンシップのルールやビジネスマナーを知るなどとなっている。

## 1.2.2 履修状況

### ①プレインターンシップ単位取得者

「プレインターンシップ」単位取得者数を表3に示す。

表3「プレインターンシップ」単位取得者(人数)

学科/年度	2019	2020	2021
機械精密	13	29	39
航空宇宙	12	23	18
情報電子	21	42	70
バイオ	34	35	39
地域	32	54	48
合計	112	183	214

2021年度の状況をみると、合計は、2019年度の約1.9倍に増加している。また、各学科の占める割合については、第1位情報電子工学科32.7%、第2位地域経済学科22.4%、第3位機械精密工学科、バイオサイエンス学科18.2%、第5位航空宇宙工学科8.4%となっている。

### ②インターンシップガイダンス出席学生

「インターンシップ」の第一回目の授業において、「インターンシップ」に関するガイダンスを行っている。第一回目の出席学生数を表4に示す。

表4「インターンシップ」ガイダンス出席学生(人数)

学科/年度	2020	2021	2022
機械精密	4	6	9
航空宇宙	5	6	1
情報電子	31	13	21
バイオ	17	15	9
地域	22	27	11
合計	79	67	51

過去3年間では、年度始めの第1回授業においては、約50人～80人程度の学生が出席をしている。また、前年度の「プレインターンシップ」単位取得者の出席率をみると、2020年度70.5%、2021年度36.6%、2022年度23.8%となっている。

### ③インターンシップ応募学生

インターンシップ応募学生数を表5に示す。

表5 インターンシップ応募学生(人数)

学科/年度	2021	2022
機械精密	1	5
航空宇宙	0	0
情報電子	1	4
バイオ	4	2
地域	12	4
合計	18	15

「インターンシップ」ガイダンス出席学生が、どの程度実際にインターンシップへ応募したかについては、2021年度26.9%、2022年度29.4%となっている。

### ④インターンシップ実施学生

インターンシップ実施学生数を表6に示す。

表6 インターンシップ実施学生（人数）

学科／年度	2021	2022
機械精密	1	4
航空宇宙	0	0
情報電子	1	2
バイオ	3	2
地域	4	1
合計	9	9

全体の合計は、2年連続で9名となっている。

### ⑤2022年度インターンシップ実施先一覧

2022年度の実施先は、「株式会社 DSB 情報システム」(東京都江東区:システム開発),「株式会社マイスターエンジニアリング」(東京都港区:建築設備のメンテナンス),「株式会社アイチコーポレーション」(埼玉県上尾市:機械化車両の製造・販売),「埼玉機器株式会社」(埼玉県さいたま市:ものづくり),「株式会社ティー・エス・シー」(宮城県仙台市:ソフトウェア開発),「株式会社アドホックシステム」(東京都台東区:システム設計),「株式会社ヤオコー」(埼玉県川越市:スーパーマーケット事業),「株式会社まいばすけっと」(千葉県千葉市:都市型小型食品スーパーマーケット)の9事業所となっている。

## 2. 方法

### 2.1 調査対象者

キャリア教育の科目である「インターンシップ」履修者(3年生)のうち,「株式会社まいばすけっと」において,2022年8月にオンライン型インターンシップを実施した1名の学生(Aさん)を対象とした。

なお,本キャンパスでは,インターンシップに5日以上参加し,事前・事後指導(成果発表・事後レポート)を受講した学生に2単位を付与している。研究実施上の倫理的配慮として,Aさんに対して,本研究と調査の趣旨を口頭及び書面にて説明して同意を得た。

## 2.2 調査実施方法

半構造化面接法によるインタビューを対象学生に個別で行い,インタビューの発言内容を質的に捉え考察した。調査時期は,インターンシップ後の2022年12月に実施した。

## 2.3 調査内容

①「オンライン型インターンシップの実習と聞いて(感想)」,②「主な内容」,③「メリット・デメリット」,④「自分の課題」,⑤「どうやって解決・克服していくか」,⑥「授業を行う上での工夫」,⑦「今後,積極的に参加したいか」,⑧「コミュニケーションの密度をどう高めていくか」,⑨「後輩への助言」,等となっている。

## 3. 結果

### 3.1 質問1「オンライン型インターンシップと聞いて(感想)」に関する内容

インターンシップを行うにあたり,オンライン型で実施をするということを聞いてどう感じたかについて質問した。

以下,表7に回答を示す。

表7 感想

- ・コロナ禍におけるインターンシップの実施ということで,オンライン型に変更した企業が多くみられることから,オンライン型に関しては,想定内であり,特に不安はなかった。
- ・今まで身に付けた自分の能力とスキルで,対応できるのではないかと考えた。
- ・自分には柔軟性があるので,初めて取り組む内容であっても,マニュアルがあれば対応できるし,確実に仕事を遂行する自信がある。
- ・授業の課題提出等に関するPC操作(Word, Excel等)は対応できるが,オンライン等に関するPCの操作が得意ではないため,操作等に関する不安はあった。
- ・Zoomの操作は,初めてだったので,事前にネットの記事で自己学習を行った。また,マイク,挙手の仕方などを中心に,Zoomの使

い方を学んだ。  
 ・インターンシップ中は、ボタン操作、スマホで操作しながら Zoom を使った。

PC 操作に関する不安はあったが、ネット等を活用し、自分で学習しながら、操作を確認してインターンシップを行ったこと、また、単位取得を目標に授業を履修しているの、最後まで頑張りたいたと考えた、などが挙げられた。

### 3.2 質問2「主な内容」に関する内容

インターンシップの5日間の日程（作業内容）等について質問した。

以下、表8に回答を示す。

表8 インターンシップの概要と主な日程

日程	内容
1日目	<b>【午前】</b> ・社会課題について、会社概要説明。 ・インターンシップの概要。 <b>【午後】</b> ・社会的な問題について。 ・問題解決（グループワーク）。 ・新規事業の検討。 →売上減少がみられる。どんな取組ができるか検討する。
2日目	<b>【午前】</b> ・問題解決の方法（グループワーク）。 <b>【午後】</b> ・課題検討、スライド作成（グループワーク）。 →4班×5人程度、まとめ役、記録係等。
3日目	<b>【午前】</b> ・発表資料作成。 <b>【午後】</b> ・発表資料作成、新規事業検討。
4日目	<b>【午前・午後】</b> ・中間発表、発表資料修正。 →3日間で作った新規事業に対し

	て、会社側からのコメント、アドバイスを受けて修正する。
5日目	<b>【午前】</b> ・パワポスライド作成。 <b>【午後】</b> ・最終発表、振り返り、個人面談、学んだこと等の発表。 ・小売業の具体的な業務内容。 ・問題解決のコツやノウハウ。 →他学生と意見交換するために必要な論理的思考力。

第1日目の午後よりグループワークが開始され、第5日目の午前中まで続いている。その後は検討した内容の発表となっているが、発表の準備と練習等の時間に関してはほぼ取れていない状況であった。

### 3.3 質問3「オンライン実習のメリット、デメリット」に関する内容

インターンシップ実習のメリットとデメリットについて質問した。

以下、表9に回答を示す。

表9 メリットとデメリット

項目	内容
メリット	・交通費がかからない。 ・開始時間が正確。 ・移動がないため、すぐに仕事モードに入ることができる。
デメリット	・やり取りにタイムラグが発生し、指示がなかなか通らずに、指示されたことがよく分からない。 →確認する必要がある。なかなかお願いしたができなかった。 ・スライドの作成の仕方において、意思疎通やコミュニケーション等に時間がかかった。

### 3.4 質問4「自分の課題」に関する内容

インターンシップを実施して、今回自分が感じた課題について質問した。

以下、表10に回答を示す。

表10 「自分の課題」に関する内容

- ・3日目にまとめ役を担当した。この際、新規事業の作り方をどのように進めていけばよいか難しかった。
- ・コミュニケーションを図り参加者同士が仲良くなることはよいことだと思う。
- ・進め方、時間を考えて進行する等、まとめ役の難しさ。
- ・参加学生間の意思疎通の図るにあたり、実際にコミュニケーションの不足を感じた。
- ・図、表などを使ったりして、コミュニケーションを図る。

### 3.5 質問5「どうやって解決、克服していくか」に関する内容

挙げられた課題をどうやって解決、克服していくかについて質問した。

回答としては、自分から積極的にまとめ役を担当するなど、積極的に自分からアクションを取ることや、短い時間で簡潔に答えをまとめていく力を身に付けるなどが挙げられた。

### 3.6 質問6「授業を行う上で、どういう工夫があったらよいか」に関する内容

インターンシップの事前学習に関する授業を進める際の工夫点について質問した。

回答としては、授業内で、Zoomを使っての学習が考えられること、具体的には、グループワーク、課題解決の検討、発表の準備、発表等など、なるべくインターンシップの本番に近くなるように、授業内容を設定して行うことがよいと思うということが挙げられた。

### 3.7 質問7「今後、積極的に参加したいか」に関する内容

今後、積極的にインターンシップに参加したいかについて質問した。

回答としては、今後は、対面方式で行われるインターンシップを計画的に体験していきたいということが挙げられた。

### 3.8 質問8「プロジェクトを進める中で、コミュニケーションをどのように高めていくのか」に関する内容

「プロジェクトを進める中で、コミュニケーションをどのように高めていくのか」に関する内容について質問した。

回答としては、グループワーク等の際に、説明がうまく伝わらないことが多くみられたので、データをグラフ化したり、コミュニケーションの能力を高めたりすることが今後必要であることを感じたということが挙げられた。

なお、社会人になって必須である問題解決力に関するスキルの向上については、今後継続して学んでいく必要がある。実際には、大学生活のゼミなどグループで活動する際にインターンシップで学んだ論理的思考力や問題解決のノウハウを生かし、話し合いの場で司会などの進行役を自ら率先してやっていく必要があるなどが挙げられた。

### 3.9 質問9「後輩への助言」に関する内容

後輩への助言について質問した。

以下、表11に回答を示す。

表11 後輩への助言に関する内容

- ・今後の進路選択を有利に進めるためにも積極的にインターンシップに参加すること。
- ・オンライン型のインターンシップに参加する際は、Zoom等のweb会議ツールの基本操作だけでも覚えておく。
- ・インターンシップで学んだことをいつでも内容確認するために必ずメモを取る。

- ・インターンシップに参加し、業界について学びを深めることも可能である。
- ・自分の性格と社風がマッチしている企業を探すための自己分析の実施。
- ・SPI 適性検査などの筆記試験対策。

## 4. 考察

### 4.1 操作の理解とスキル習得

オンライン型インターンシップを体験した A さんに対して行ったインタビュー調査の結果を考察した。

まずは、オンラインに対応できる基本的操作に関する能力やスキル等が習得できていることが求められる。また、オンライン型で求められるツールの活用力や、オンライン型インターンシップに参加するにあたり、ツールを使いこなす力が求められる。具体的には、実際に活用されるツールは、Zoom となる可能性が高いことから、それに関する基本的な操作スキルを獲得しておくなどの準備が必要であると考えます。

なお、この基本的操作に関しては、LMS[5]の BlackBoard Collaborate Ultra (以下「Collaborate」) を活用しての同期型オンライン授業の実践が有効である。この同期型オンライン授業は、Zoom や Teams, Collaborate 等のシステムを利用して実施する遠隔型の授業となっている。なお、Collaborate は、LMS 上で利用できるオンライン会議システムのことで、コース内に Collaborate へのリンクを設置することで、コースに登録されている学生に向けたオンライン講義を行うことができるものである。

このように Collaborate を活用することにより、オンライン授業の進行に必要な教材等を、リアルタイムで学生と共有することができ、機能的に充実したオンライン教育環境を体験することができる。

一方、Zoom や LMS 等の機能を活用しながら、これらのツールを活用しての授業作りに関する検討を行い、授業改善し、インターンシップの現状を把握し、理解をしながら、オンライン型イン

ターンシップに慣れることを目的とした授業作りを行っていく必要があると考える。

以下、授業作りに関する検討項目を挙げる。

まず、全体としては、①視覚的に、理解しやすいものを準備する、②図式化、フローチャート等を準備する、③工程が分かりやすいようにする、④チャット機能を活用する、などが挙げられる。

次に、グループワークとしては、①課題の達成状況の確認、現在、どの程度、どの段階を進めているのか、進捗状況の見える化、②課題に対する質問や提案等の際に、自分の考えをまとめ伝えることができない。③課題を作成し、その実行と評価、実行状況のみ見える化。④評価のみ見える化、等が挙げられる。

### 4.2 コミュニケーションの図り方

各授業の中でも、オンライン型の授業内容を設定し、その中で、グループワークをとおしながら履修学生同士が、コミュニケーションを十分に図り、その力を高めていけるような、授業作りが求められる。

特に、コミュニケーションの取り方や、意思の疎通を図ることが特に難しかったということから、グループワークや話し合い、集団でプロジェクトに取り組むなどの際に必要となるコミュニケーションを柔軟に構築する方法を学ぶ必要がある。

また、併せてグループワークの進め方で、学習方法、インターンシップの実際との連携等について考察することや、一つのプロジェクトを数人のグループで取り組むなどの授業を検討することが必要であると考えます。具体的には、短い時間で、自分の意見をまとめ、ポイントを発表することができる力を育てることが重要である。

### 4.3 集中力の向上

集中力が継続しないことが多く、集中できる環境作りが必要である。オンラインによるインターンシップは単調になりやすいことから、学習等に集中できる仕組み作りが求められる。

具体的には、グループディスカッション前のイントロダクションパートで、業界や事業内容に関する質問等を随所にちりばめ、参加者一人ひとりの発言を促すことで、参加型の雰囲気を醸成するとともに、その後のグループディスカッションでは質問等で得た知識を使ったやり取りが活発に行われ、質の高いアウトプットにもつながることも考えられる。

以上のように、グループディスカッションを組み込んだプログラムの検討の必要性が挙げられることから、集中力を高める授業作りの検討が重要である。

## 5. まとめと今後の課題

今回の研究では、オンライン型インターンシップの現状と課題を明らかにした。オンライン型に参加する際に、求められるスキルを中心に、事前に必要となるスキル等に関する事前学習の必要性が明らかとなった。このようなことから、学生本人が対策を検討することはもちろんであるが、授業担当者として、授業の中で、取り組める内容についても把握することができた。

また、オンライン型の働き方に関しても今後検討を求められることが予想されることから、オンライン型インターンシップを見据えた授業作りについても検討をする必要があると考える。

以上のことから、今後は、オンライン型インターンシップの増加が予想されるので、これからの大学生活の中で、今後の就労生活をイメージして、時間に使い方や、通勤等、このような働き方に慣れるため、就活に向けた方向性や今後の働き方等につなげる具体的な支援が求められる。

## 参考文献

[1] 亀野淳, “日本における大学生のインターンシップの歴史的背景や近年の変化とその課題 — 「教育目的」と「就職・採用目的」の視点で”日本労働研究雑誌, 8月号, No.733, 2004

[2] インターンシップの推進に当たっての基本的考え方 (三省合意),

<https://www.psmr.jp/topics/detail.php?id=22271,2022/12/15> アクセス

[3] インターンシップの推進に当たっての基本的考え方,

[https://www.mext.go.jp/component/a\\_menu/education/detail/\\_icsFiles/afieldfile/2015/12/15/1365292\\_01.pdf](https://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/detail/_icsFiles/afieldfile/2015/12/15/1365292_01.pdf)  
2022/12/10 アクセス

[4] マイナビ 2022 年卒大学生インターンシップ・就職活動準備実態調査 (これまでの活動の振り返り / 10 月の状況) を発表,

<https://saponet.mynavi.jp/column/detail/20210428153219.html>, 2022/12/18 アクセス

[5] 帝京大学ラーニングテクノロジー開発室, “LMS ハンドブック 2022”